

2025 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

山下 真平 (和歌山県立医大)

この度、Las Vegas で開催された AUA Annual Meeting に引き続き、4月30日から約3週間、JUA/AUA Academic Exchange Program を通じて、Gainesville にあるフロリダ大学で約3週間研修させて頂きました。

Las Vegas では、同門の出口龍良先生と AUA Annual Meeting に参加し、他施設の先生方とも合流して、本場のシルクドソレイユを観劇したり、バラジオの噴水ショーを見たり、カジノを満喫したりと、華やかな毎日を過ごしたわけですが、その後、1人で、国内線乗り継ぎ Gainesville 空港へ向かいました。当然のことながら、不安でいっぱいだったわけですが、その不安が正に的中し、Lost baggage で Gainesville 空港に到着後3日間、トランクが手元に届かないという事態に見舞われてしまいました。さらに、ろくに下調べもせず、フロリダと聞いて『ディズニースタートランドのあるリゾート観光地』を想像していた私でしたが、Gainesville は観光地からは割と離れたフロリダ大学中心の町であり、滞在中、大学の先生との食事以外は、ひたすら大学病院とアパートを行き来するという、修行僧のような生活を送りました(写真1)。久しぶりに自炊や洗濯も自分で行って見ましたが、家族のありがたさと自分の無能さを痛感する毎日で、自己を見つめなおすという意味でも大変有意義な滞在になりました。

フロリダ大学では、主に手術見学を中心とした研修をさせて頂き、私の希望通り、ロボット支援手術から、結石・前立腺肥大症に対する内視鏡手術まで、多種多様な手術を見学させて頂きました。確立された指導体制のもと、多くのレジデントがしのぎを削っており、いずれの術式も、スタッフの先生方の指導を受けながらレジデ

ントが積極的に執刀していたのが印象的でした。

ロボット支援手術については、当院で行っている方法と比べて、どのような違いがあるのか、自分であればどうするか、という点を意識しながら、没入感を持って見学することができ、大変有意義な時間になりました。大きな収穫だったのは、客観的に自施設の手術手技や方法を評価することができたことであり、一定の自信を得ることもできましたが、当然のことながらエキスパートの先生の手術技術は目を見張るものがあり、中でもロボット支援手術のスペシャリストである Dr. O'Malley は、レジデントの手を上手く借りながら、下大静脈腫瘍塞栓症例の腎摘除術と RARC+ICUD を並列で執刀されるなど、多くの高難度手術を短時間でこなされており、その卓越した技術には大変驚きました(写真2)。また、Professor Su からは、ご自身で編集されたロボット支援手術の教科書(メッセージ入り)をプレゼント頂き、RARP や RAPN といった術式の基礎から応用まで、実際に執刀しながらその教科書の内容をご解説頂くという、大変贅沢な時間を過ごすことができました。一方で、手術方法の違いに驚かされることもありました。一番驚いたのは、腎摘除術を行う際、腎動静脈をそれぞれ剥離せず、開腹手術時の腎鉗子での処理のようにステイプラーを用いて腎茎部を処理されていたことです。日本では血管をそれぞれ剥離し、クリップで処理するのが一般的であることを伝えると、『昔の僕たちのやり方だね!』と逆



写真1 Prof. Su らとの食事会



写真2 Dr. O'Malley と手術場で

に驚かれました。また、完全無阻血での cT1b RAPN や、da Vinci SP を用いた、前立腺癌に対する経膀胱前立腺全摘除術や尿管狭窄に対する尿管再建術（頬粘膜使用、頬粘膜はレジデントが採取していました！）など、日本では直接見る機会のなかった術式も見学することができ、大変刺激になりました。

内視鏡手術については、何より充実した内視鏡・周辺機器のラインナップに大変驚かされました。特に、私自身の専門領域の1つである尿路結石手術においては、Moses 搭載の high power Ho:YAG レーザーはもちろん、ツリウムファイバーレーザーも各手術室に常設されており、high volume center らしく、サンゴ状結石や嵌頓結石など、高難度症例に対する ECIRS/PCNL や TUL を連日多数執刀されるなど、自施設とのスケールの違いを痛感しました。腎穿刺は放射線科医が透視下に行うことが多いという点を除いては、TUL, ECIRS などの手術手技・手順は自施設と共通している部分も多く、細かい

手術の Tips や考え方の違いについて、エキスパートの先生方と discussion することができ、今後の手術に活かすことのできる学びも多くありました。結石手術のエキスパートである Dr. Bird からは、人工知能を用いた共同研究についてもお声がけ頂きました。実現に向けては様々な障壁があるかと思いますが、今後の進展に期待したいと思います。

短い期間ではありましたが、本当に充実した3週間となりました。今回の滞在を今後の糧として、引き続き日々の業務に邁進して参りたいと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださったJUAおよびAUA両学会の関係者の皆様、快く送り出して下さった柑本康夫教授をはじめ医局の先生方、温かく迎え入れてくださった Professor Li-Ming Su をはじめとするフロリダ大学泌尿器科の先生方に、心より深く御礼を申し上げます。